



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
ツムぐ学生

第1号(創刊号)

2017年4月7日

編集 濱島和也

(片葩小SP担当)

2017年4月6日(木)

かたはWSP(ウィークリーSP)、スタート!!

さっそく第1号を書き始めようと思います。私から後輩の皆さんに教えられることは大したことではないですが、気付いたことを元SPとして、学生目線と教員目線の両方から書いていこうと思います。

今日は片葩小学校の入学式。SPとして、山田くん、小島さん、帖地さん、水野さん、梅田さん、堀口さんが来てくれました。そして、6年生の入場係の誘導や1年生の生活サポートをしてくれました。こちらからお願いしたことではなく、SPさんが「その場で考えて、自分の判断で」動いてくれました。これは非常に重要なことだと思います。庄子校長先生が、「打合せのいるTT(2人の教師で指導する方法)はプロの仕事ではない。」とおっしゃられたことがあります。自分もそのとおりだと思いました。打合せの時間が他の仕事をする時間を圧迫してしまうからです。自ら考え、判断し、行動することで、初めて「学生ボランティアの価値が生まれる」と思います。これからもどんどん動いてみてください。失敗したと思ったら、先生に謝ればいいんです。まだ学生なんだから、失敗するのは当たり前。教師として学校現場に出る前に失敗を多くして行ってください。特に5年2組では、自由にやってください。



S Pの皆さんは、今日の入学式の先生方の動きや会場の様子から、どんなことに気付くことができただしょうか。私としては、大きく次の二つのことに気付いてくれたらいいなと思います。

一つ目は、もちろん「児童の指導」です。

6年生が1年生の手を引いて入場します。1年1組の担当の6年生は右手で、1年2組の担当の6年生は左手で手をつないでいました。これには理由があります。保護者の方がお子さん写真を撮りやすいようにクラスで左右の位置を変えたのです。このような細かいところまで配慮をしています。

また、児童への起立・礼・呼びかけ・校歌の指導。このようなときの指導は、抽象的ではなく、具体的な指示が重要です。「みんなで心を込めて気持ちを合わせる」。これは、自分が昨年の子まつりの練習のときに行った指導です。これでは、児童の気持ちは高まっても、呼びかけは合いません。「自分の中で1、2と数えて次の呼びかけに入ろう」。これでも、児童によってタイミングが違ふことがあります。それを全員で合わせるためには、教師が見本を見せることです。そうすると、児童がその‘間’に合わせるようになり、だんだんタイミングが合っていきます。

また、歌の時に「視線を上」と言ってもなかなか顔が上がらない児童がいます。そういう時には、あごの下に手を当てて、あごの角度を教えます。そうすると自然に視線が上がります。抽象的な指導よりも、具体的な指導ができるようになると思います。

二つ目は、「会場準備」です。

あの椅子や国旗・校旗は誰が準備をしたのでしょうか。もちろん教員で準備をするところがありますが、できるところは6年生の児童が行います。その6年生に指示を出すときに、自分の頭の中でシミュレーションをして、どうやったら子どもたちが作業しやすいか、効率的に動けるかを考えてやっていくことが大切だと思います。あいまいな指示やころころ変わる指示では、子どもたちのやる気はどんどん下がります。この状態で終わった時に褒めても、子どもたちに充実感はありません。自分たちでやったんだという気持ちを抱いているときに褒められると、子どもたちは素直に受け止めることができるものです。

体育館の式場だけではなく、受付や下駄箱の準備、1年生の教室の飾り付けなどでも参考になるものがたくさんあります。学校のデジカメを使ってUSBにどんどん保存して行ってください。困ったときは、まねから始めてください。それにだんだんと自分の色をつけていけばいいと思うのです。分からないことがあれば、どんどん聞いてください。

第1号なので、頑張って書きました。また、今日は時間の余裕がありましたが、余裕がなければ文章の少ないものになるかもしれません。現役S Pも、どんどん通信を書いて行ってください。

